

スマート農業の普及実装の加速化について

【担当省庁】農林水産省

スマート農業技術の現場実装により、中山間地域や小規模農業を維持・発展させるため、以下の措置を講じていただきたい。

○「スマート農業加速化実証プロジェクト」について、来年度以降も含めた予算確保及び追加公募していただくとともに、中山間地域における京野菜や宇治茶の生産現場に対応したスマート農業技術の実証事業を採択していただきたい。

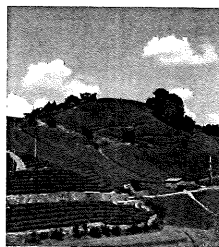
○国が今夏に策定する「農業新技術の現場実装推進プログラム（仮称）」では、スマート農業の現場実装の必要性が高い中山間地域や小規模農業を対象にした推進方策やロードマップを位置付けていただきたい。

○中山間地農業において飛躍的に省力化が図られるドローンによる農薬散布の普及を加速化させるため、既存農薬の適用拡大等を押し進め、ドローン散布に適した農薬数を十分に確保していただきたい。特に、ホソガ防除の殺虫剤や炭疽病の殺菌剤など、宇治茶生産現場で頻繁に使用される農薬の適用拡大を進めていただきたい。

【現状・課題等】

■経営耕地における中山間地域の割合と、農業経営体に占める小規模農業の割合はいずれも大きい（農林業センサス2015）。過疎・高齢化が進む中山間地域や家族経営等の小規模農業でこそ、スマート農業技術により、作業の省力化、栽培の最適化による収益向上、熟練技術の共有化などを進める必要がある。

- ・中山間地域 全国：約40% 京都府：約70%
- ・小規模農業 全国：約97% 京都府：約97%
(家族経営体)



山なり茶園(京都府和束町)

■ドローンによる農薬散布に適した農薬の選択肢が少ない。特に、京都府の宇治茶生産現場の多くは、写真(右)のとおり、山間部の傾斜地を開墾した「山なり茶園」であり、ドローンによる農薬散布の効果が発揮できる普及すべき現場

京都府 の担当課	農林水産部 流通・ブランド戦略課(075-414-4968) 農産課(075-414-4944)
-------------	---

【国の事業等】

■スマート農業技術の開発・実証プロジェクト【農林水産省】⑩補正6,153百万円
スマート農業加速化実証プロジェクト【農林水産省】505百万円

スマート農業技術の更なる高みを目指すため、現在の技術レベルで最先端となるロボット・AI・IoT等の技術を生産現場に導入し、スマート農業を実証する取組に対する補助制度

■中山間地域や小規模農業も想定した「農業新技術の現場実装推進プログラム」

推進プログラムでは、未来投資戦略2018で掲げた目標「2025年までに農業の担い手のほぼすべてがデータを活用した農業を実践」に必要な取組等を定める。

【京都府の取組】

■スマート農業技術の普及実装

- ・令和元年度事業により、スマート農林水産業相談窓口の設置やスマート技術（機械等）の導入支援など、現場実装の環境整備を開始
- ・中山間地域や小規模農業に実装できるスマート農業技術の実証事業3件（水稻、京野菜、宇治茶）を「スマート農業加速化実証プロジェクト」に応募したが、水稻1件のみが採択。京野菜・宇治茶の現地モデル実証の停滞が懸念
(※採択率(全国採択数/全国応募数) = 27% (69/252))

※スマート農業加速化実証プロジェクトへの京都府応募事業

